

よさこいクラブ 高知

発行所
高知県老人クラブ連合会
高知市朝倉5375-1
電話(088)844-9154

三大運動

- 心とからだの健康づくりを
すすめましょう
- 友愛活動をすすめましょう
- 住みよいまちづくりを
すすめましょう

就任のあいさつ

高知県老人クラブ連合会会長 成川 清



「地域支え合いで地域貢献」
県老連は平成22年度の事業計画の冒頭に初めてこの独自のテーマを掲げ、新年度が発表しました。

私はこのたび3月30日の理事会において、県老連の会長を引き続き4月1日から2年間務めさせていただくことになりました。

この重責を思うと、不安もあります。皆さまのご協力、ご支援もいただいて力を合わせて、よりよい老人クラブづくりに努めていきたいと考えております。

私はいつも申しあげていますが、老人クラブ活動に加わって以来、老人クラブ活動の基本は単位老人クラブの活動であると考えてきました。平成18年8月に会長に就

任した後も県老連の運営について、老人クラブ活動の原点は単位老人クラブであるとの考えを基本として取り組んできました。

ところで、私は、今任期を終り上げた時期と考えています。

この2年間に少なくとも2つの課題解決に向けて重点的に取り組もうと考えております。

まず、冒頭のテーマに掲げました、「地域支え合い」の推進です。これは、老人クラブが地域に密着した最大の高齢者組織であるという特性を活かし、地域での支え合いに力を発揮し、地域貢献を進め、併せて加入促進につなげようとするものです。

もう一つは、「公益法人制度改革」への適切な対応です。

公益法人に進むのか、一般法人に進むのかで県老連の組織の性格、ひいては老人クラブ活動そのものにも影響を与えます。

老人クラブの活動には、自

らの健康づくりに加えて「地域支え合い」のように公益的な事業も多くありますし、期待もされています。

いずれにしても、皆さん方にも十分ご理解をいただいて協議も行い、決定していきたいと考えています。

そのほか、健康づくり・介護予防の推進や若手高齢者・女性会員による老人クラブの活性化などにも取り組んでいきます。

さらに、本年は県老人クラブ大会が50年の記念大会になります。皆さんの力添えをいただき、次の50年につながる記念大会にしたいと思っておりますのでよろしく願います。

最後に、高年、女性、若手が力をあわせて老人クラブ活動の活性化に取り組む県老連をめざしていきたいと考えていますので協力をよろしくお願ひしまして、会長就任のご挨拶といたします。



平成22年度 県老連事業実施計画 決まる

3月30日(火)、県立ふくし交流プラザにおいて県老連理事会・評議員会が開かれ、平成22年度事業計画及び予算を主たる議題として審議の結果、いずれも原案どおり承認されました。その概要は次のとおりです。

基本方針

高齢化と人口減少が同時に進行する社会になり、高齢者を取り巻く環境も大きく変化してきています。

特に、高知県の多くを占める中山間地域では、人口の減少、高齢化の進行によりまして、これまで地域が担ってきた支え合いの力が弱くなってきました。

こうした中、高齢者の経験や知恵がますます必要とされる時代を迎えています。

私達老人クラブは「健康・友愛・奉仕」の全国三大運動を進めてきましたが、今後も引き続き単位老人クラブを基本とする活動を進めていきます。

一方、内外の経済・社会構造の激しい変化により、厳しい財政状況の下、年金・医療・介護など社会保障制度は根幹が揺らいでいます。

また、昨年、政権交代があり「コンクリートから人へ」という政策転換が謳われました。

しかし、国の老人クラブ関係予算が一時は「事業仕分け」の対象とされ、また、加入率の減少も止まらないなど、老人クラブを取り巻く環境は一段と厳しくなることが見込まれます。

こうした状況を踏まえ、老人クラブは、地域に密着した最大の高齢者の組織である特徴を活かし、地域での支え合いに力を発揮し地域の期待に応える取り組みを進めていきます。

この「地域支え合いで地域貢献」活動は老人クラブへの加入促進にも繋がります。

こうした取り組みを進めるためには、老人クラブ活動の原点である「単位老人クラブ」の活動の活性化が必須であり、加えて「単位老人クラブ」を支援している「市町村老人クラブ連合会」の強化が課題です。

このため、今年度も引き続き「単位老人クラブ」本位、「市町村老人クラブ連合会」本位の事業計画を推進します。

まず、昨年度創設した「地域支え合い事業」を充実し、多様な形の地域支え合いに取り組むこととし、引き続き、市町村老連の負担を求めない、モデル市町村を設定して実施します。

さらに、21年度に創設した

「老人クラブ活動支援事業」を多様な活動に対応できるように充実・拡充し、老人クラブ活動の活性化を支援します。

また、「若手高齢者組織化・活動支援事業」を拡充し、引き続き、市町村老連の若手高齢者の組織化を支援するとともに、新たに組織の充実と活動活性化を支援します。



▲評議員会の模様

このほか、ろうれんビックをはじめてする「健康づくり・介護予防支援事業」や女性リーダー研修会など各種研修会は引き続き実施します。

なお、「高知県老人クラブ大会」は50回の記念大会として、ふくし交流プラザで開催します。

また、公益法人の制度改革への対応としては、22年度中に移行方針を決定し、23年度申請に向けて諸準備を進めます。

これらの事業の推進にあたっては、単位老人クラブ、市町村老人クラブ連合会と協

平成21年の交通事故発生状況

1 高知県の交通事故発生状況

発生件数	平成21年	3814件
	平成20年	4005件
増減率		△191件
死者数	平成21年	45人
	平成20年	57人
増減率		△12人
傷者数	平成21年	4450人
	平成20年	4579人
増減率		△129人

前年に比べ、発生件数、死者数、傷者数ともに減少しています。特に死者数は、昭和27年以降、最少でした。

2 高知県の位置(全国指数でみる死者数)

人口10万人当たり	5821人
全国ワースト13位	
免許人口1万人当たり	0.9人
全国ワースト9位	
自動車1万台当たり	0.658人
全国ワースト12位	

3 高知県の交通死亡事故の特徴

①高齢者の減少率は全国第一位
15人(構成率33.3%)で、前年の35人(構成率61.4%)より20人減少し、死者の減少率57.1%は、全国第一位でした。

②高齢者の特徴は、道路横断中が多く、老人クラブ未加入者が多い。
15人のうち、道路横断中が7人(46.7%)と高い構成率を占め、交通安全教育を受ける機会の少ない、老人クラブ未加入者は13人(86.7%)でした。

③自損型が多い
19人(構成率42.2%)と多数を占め、うち対向車線進入事故は8人でした。
④国道での構成率が高い
国道が30人(構成率66.7%)と高い構成率を占め、前年より8名増加しています。

⑤四輪乗車中の死者のシートの着用率は低調
四輪乗車中の死者18人中、着用が確認されたのは8人(着用率44.4%)で、非着用者10人中7人(70%)は着用していれば助かったと思われる。

⑥自転車利用が増加
自転車利用中が10人(構成率22.2%)と前年より4人増加している

道路横断時の注意事項について

1 「車は行った」と通り過ぎた車の直後を横断していませんか。
2 「面倒だから」と横断歩道まで行かずに横断し

3 「車が来ていないから」と信号無視していませんか。
4 「渡りきれぬだろう」と無理に横断していませんか。
県内では、今年になって高齢者の交通事故が増加しています。特に道路を横断中のお年寄りが被害に遭っていますので、交通安全行動を心がけましょう。

高齢者の歩行者事故防止のポイント

「お達者七訓」

- 1 通り慣れた道でも横断前に必ず安全を確認する
- 2 少し遠回りでも近くにある横断歩道を渡る
- 3 青信号でも右・左折車の動きに目配りする
- 4 道路の右左がよく見えるところから横断する
- 5 夜間は横断後半、左からの車に注意する
- 6 近づいてくる車があるときは通りすぎるまで待つ
- 7 夜光反射材を活用しドライバーから発見されやすくする

黒潮町老人クラブ連合会 高知県安全まちづくり 功労団体表彰される

2月10日、高知市の高知会館において、黒潮町老人クラブ連合会が「犯罪のない安全で安心なまちづくりに関する優れた活動を行った地域活動団体」ということで高知県安全安心まちづくり推進会議から表彰されました。

功績の内容として、黒潮町高齢者自主防犯会は、安全で安心して暮らせる地域社会の実現と、地域の青少年育成に寄与することを目的に、黒潮町老人クラブ連合会が中心になって単位老人クラブごとに活動をしており、高齢者相互の声かけ運動、毎日散歩時や買い物時にパトロール用帽子を着用してのパトロールは継続して行われ、他団体等の活動にも影響を与えるなど波及性が高く評価された。



表彰式

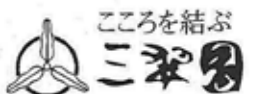
高知初の良質天然温泉 高知三翠園温泉

露天風呂もある本格的温泉施設「湯殿水栽園」は、長旅の疲れを癒し潤いと活力をもたらす、高知の本格的な温泉施設として注目を集め、ご利用者の皆様に好評をいただいております。

高知三翠園温泉 湯殿水栽園

ご入浴料金

大人	900円
小人(小学生)	400円
幼児(3才以上)	200円
65歳以上	600円



高知市鷹匠町1-3-35
TEL 088-822-0131

土佐清水・ジョン万次郎くろしお社中を見学!!

催行日: 7月9日(金)・10日(土)
募集人数: 各日45名(最少催行人数20名)
旅行代金: お一人様7,800円(昼食付き)

足摺・四万十川一日帰りツアー

南国市(7:30)→高知市(8:00)→土佐市(8:30)→ジョン万次郎くろしお社中—
【NHK大河ドラマの資料を中心に展示】

—足摺黒潮市場(昼食&お買い物)—電車海岸散策—
【新鮮な清水さばの定食をご賞味いただけます】 【専門ガイドによるご案内つき】

—四万十川観光遊覧屋形船—土佐市(18:30)→高知市(19:00)→南国市(19:30)
【清流四万十川を約50分かけて遊覧】

お申込み・お問い合わせは・・・

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第55号 (社)日本旅行業協会正会員

名鉄観光サービス(株) 高知支店

TEL:088-873-5888 FAX:088-825-3661

営業時間 平日9:00~18:00 定休日(土・日・祝) 担当: 福田

※詳しい旅行条件等は店頭パンフレットにてご確認ください

(1) 老人クラブ健康づくり

(1) 老人クラブ傷害保険の普及促進

會長
會
事

事務理事
事

3 月中
地域支え合い事業連絡会議
理事会・評議員会

健康づくり

仲間づくり

地域づくり

クラブ活動紹介

田野町若手委員会の 取り組み

田野町老人クラブ「千歳会」
若手委員会 松本 昭英

平成の市町村合併で四町の小さな町となった本町の中学校に生徒の勤労生産学習を目的に昭和29年に面積0・8ヘクタールで実習茶園が「桃山茶園」として開設されています。

以来、特色ある体験学習が実践継承されています。その茶園が近年の少子化による生徒数の減少で学校だけでの取組が困難な現状になってきていました。

この状況のとき老人クラブでも地域支援活動として協力することがないだろうかと思いをめぐらしていたところ、丁度県老連から若手委員会の組織づくりの勧めがありましたので、これをきっかけに茶園作業の応援活動に取り組みようと平成19年7月3日に75才以下の老人クラブ会員の全員が若手委員会に属することで発足することが出来ました。

活動は月一回の除草作業と一番茶摘みの作業では生徒、保護者の合同で実施し互いの交流を図りながら汗を流しています。

新茶は「桃山茶」として味もよく町民にも好評で毎年完売されています。

お茶の売り上げ金のすべてが生徒に還元されており、生徒会活動費や卒業記念ア

ルバムの無料配布や修学旅行の費用一部助成として使われています。



若手委員会の作業へも年6万円を支給してくれていますので、これを会員の日帰り旅行の経費に充てて年一度の楽しい会員の親睦の機会となっています。

初年は岡山市日生町に珍味で大人気となっている「カキオコ」を賞味しての楽しい一日となりました。

二年目は今治市吉海町の「よしうみバラ園」で世界のバラを楽しみました。

今年は松山市の「坂の上の雲ミュージアム」と西条市の「アサヒビール園」の見学で親睦を深める一日を計画しています。

若手委員会の発足を地域の支援活動の目的をもって組織したことが、会員の理解協力に繋がっているのではないかと思います。

平成21年度 地域支援事業の 取り組み

県内

7老連をモデル指定

「老人クラブ」は地域に密着した最大の高齢者組織という特徴を生かして、地域での支え合いに力を発揮しようとして県老連では平成21年度の重点事業として「地域支え合い事業」に取り組みできました。ここでは、新設の「友愛のまちづくり推進事業」のモデル老連7箇所の取り組みを紹介いたします。

四十市老連では、この事業は子ども見守り活動を中心に行うこととし、「子ども安全パトロール中」というステッカーを作製し、大川筋中学校区にある保育所・小学校・中学校の保護者の自家用車に貼ってもらい、不審者から子どもを守る役割を地域の人と一緒に果たして行いました。



西土佐地区の川崎小学校では、「子ども見守り隊」が組織されており、その中に老人クラブも参画し、「地域ぶらり運動」という名称で、腕章をつけて子ども登下校時間に合わせて、散歩をしながら子どもの見守りを行いました。

同じく、子どもの見守り活動を実施したのが、南国市の三和地区老連です。三和地区では、月2回、曜日を決めて、子どもの登校時に交差点に立ち、見守り活動を行っています。交通量の多い交差点にお揃いのベストと帽子をつけて立つことによって、子ども見守りの役割だけでなく、行き交う車のドライバーへの交通安全の啓発になっているようです。



ドライバーへの交通安全の啓発を行ったのが、田野町老連です。毎月15日の「田野町交通安全の日」に二つの単位クラブが国道沿い2箇所で老人クラブの旗を掲げ、交通安全の呼びかけを行いました。

行いました。

北川村老連では、通学路に面する会員宅の前にプラントを設置し、子ども達の通学時間に合わせて花の手入れをすることで、子ども達を見守る活動をしています。また、老人クラブが主催する料理教室やグラウンド・ゴルフ大会に児童を招いたり、会員が学校行事に参加したりすることで、子ども達と顔見知りになることによって見守り活動に役立てています。

土佐町老連では、統合により使われなくなった小学校のグラウンドの除草作業、花壇等の整備・植栽、周辺の清掃活動などを行い、地域の学校を大事にする活動を行いました。

佐川町老連では、老人クラブの名前の入った手旗を持って、保育園児や小学生の登園、登校時間帯に声かけと安全指導を行うことで見守り活動を行いました。町民の方から「老人クラブは良くやってる」と評価されています。

梶原町老連では、振り込め詐欺や悪質商法の被害防止のために寸劇を研修会や集会で行うことで啓発を行っています。寸劇では、町内で実際にあった話を題材に演じることで、より身近に感じてもらったことが出来、被害防止に一役買っているようです。

